

平成27年度事業報告

○法人事業報告

1 支援のあり方を障害者総合支援法の基本理念である共生社会の実現に向けて、社会参加の機会の確保及び社会における共生・社会的障壁の除去に資するよう総合的かつ計画的に行う。本法人においては、就労継続支援事業と共同生活援助事業において、後述のとおり年度計画が遂行された。

2 法人機能強化を図るために、法人事務局を開設し、役職員が一丸となって事業計画が達成できるように推進する。定款に基づき①定款施行細則の改正、②役員報酬等規程の改正、③文書管理規程の補足部分の改正、④職員就業規則の改正、⑤職員給与規程の改正、⑥慶弔規程の制定、⑦事業に係わる苦情解決規程の制定、⑧経理規程の改正等諸規程の見直しが行われた。そのために9回の理事会が開催された。また、評議員会も3回開催された。

3 共同生活援助施設の移転計画は、2年半をかけて平成27年3月14日に移転が実現した。施設は横浜市福祉のまちづくり条例に則り、防災設備としてスプリンクラーが設置され、車いすを利用するようになっても安心・安全に生活が送れるように完全バリアフリー構造となっている。

4 障害福祉事業の将来計画を見据えた財政の安定化を図るために経理規程に基づき適切な積立金を留保することができた。

5 施設の老朽化を克服及び事業の拡大を

計るためにネバーランドの移設計画は残念ながら特別委員会の開設に至らず次年度へ持ち越すこととなった。

○就労継続支援事業報告

1 きょうされん全国大会 IN かながわ（9月22日（日）～23日（月））に参加した。分科会で学び合い、全国の仲間たちと交流することができた。

2 バザーや地域の祭礼等外部の販売に積極的に参加し、自主製品の売り上げの向上につなげ、製造から販売に至る工程を体験することによりものを作る喜びにつながった。

3 軽自動車を導入したことにより、納品や送迎等に活用できた。今後はさらにフレキシブルに活用していく予定である。

4 ネバーランドで古紙回収、ハートランドで地域清掃、トロワランドで乾燥野菜販売等地域の協力を得ながら活動を増やすことができた。このことは地域との交流を深めることにもつながった。

○共同生活援助事業報告

1 入所者一人ひとりの自立を目指した支援が実現できるように努力した。共同生活を送る上での個々人のアセスメントを職員が共有し、個別支援計画に沿った支援を行った。

6 ホーム合同の行事を実施することを通して、互いに入所者同士が支え合う関係を

大切にし、自助、共助、互助が培われることを重視した。さまざまな社会参加の機会を通して、自己決定力、選択力等が培われ、ホームでの話し合いを通して日帰り温泉入浴、カラオケを楽しむ、外食を楽しむ等の外出支援も実施された。

後援会や家族会・保護者会の協力の下、バスハイク、一泊旅行、新年度食事会が実施された。また、地域交流として防災訓練や地域行事への参加の機会も増加した。

2 入所者の加齢に伴う健康管理が重要な課題となっている。日中支援、夜間支援、かかりつけ医との連携、食事療法のあり方等専門家の助言を仰ぎ課題解決を図った。

3 社会状況の変化に対応して、社会保障制度の改正にもつながっており、グループホームでの生活が真のセーフティーネットとしての役割を担うために情報の収集と発信に努め、入所者も社会の変化を理解できるように支援を行った。

○活動報告

★ネバーランド★

ネバーランドでは、利用者と家族と職員が共に参加して1日を過ごそうと4月29日（木）に東京ドームの約27倍の広さがあり四季折々の花が楽しめ、冬の季節には関東3大イルミネーションの一つに数えられる東京ドイツ村と南房総四季の蔵へ出かけました。



バスハイクを通して「家族と職員が共に協力し合い、利用者の個別支援計画を達成できるようより良い支援につなげていこう」との方針に則り、家族との交流や支援のための近況、情報の共有を深める機会とした。

利用者と家族21人、職員5人が貸切バスを利用して、東京ドイツ村にて、利用者と家族そして職員がバーベキュー・パーティーの同じ席に着き、和気あいあいと歓談しながら食事を楽しみました。

食後は、観覧車に乗るグループ、足こぎボートや手漕ぎボートに乗るグループ、四季折々の花を觀賞しながら散策を楽しむグループに分かれて過ごしました。思い出に残る記念品と友達や家族へお土産を買うのも恒例の活動となりました。ドイツ村での記念に、花が終わりかけた芝桜の前で集合写真タイム。



(写真提供：櫻井康太さん)

南房総産地直売所と特産品ショッピングモール房総四季の蔵へ移動し、地下150メートルから湧き出る温泉を利用した足湯で疲れを癒しました。



(足湯と地下150mから湧き出る天然水を味わえる足湯場 写真提供：房総四季の蔵)

参加しての感想では、「楽しかった」、「また参加したい」が全員の声でした。「来年は何所へ行きたいか3か所上げるとしたら」と聞いたところ3か所以上の希望があり、来年度は何処に決めるか苦心しそうです。

★トロワランドー泊旅行★

5月21日(木)作業終了後、地下鉄で上大岡に向かい、京浜急行に乗り換えてマホロバ・マイズ三浦へ利用者13人と職員7人とで出かけました。

今回の活動の目的は、お土産店に並んでいる商品でよく売れる商品を自主製品の参考にしようとする参加者一人ひとりが観察することでした。アイロンビーズのデザインに取り入れられそうな商品を付添職員と話し合いながら見て回りました。

到着後、夕食を済ませ全員でカラオケタイムを楽しみました。日頃作業所内で見られない利用者さんの一面も見られ、一夜を共に過ごすことの大切さを職員は知ることができました。夜はゆったりとした部屋で利用者と職員と一緒に枕を並べて就寝できたのも思い出に残る一ページとなりました。



翌22日(金)、日頃、体を思いっきり動かす機会が少な

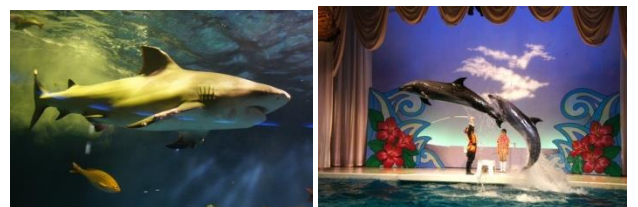
いのではないかと、色々な温泉入浴が楽しめるアクアパークで水着を着用して過ごしました。温水プール、ジャグジー、サウナ等で家庭では味わえない体験をして、事故もなく過ごすことができました。昼食はバーベキュー・パーティーでした。「お肉がおいしかった」との感想が聞かれ満足度の高さをうかがい知ることができました。太陽の周りに虹が一周する珍しいハロ現象を見ることもできました。



(人気のバーベキュー・パーティー

写真提供：加藤祐子さん)

午後はマリンパークを見学し、帰路につきました。次回は参加者の声を参考に企画したいと思います。



(油壺マリンパーク 写真提供：油壺マリンパーク)

★たのしさいっぱい バスハイク★

年に一度、社会福祉法人ぐりーんろーど

就労継続支援事業所と共同生活援助事業所の利用者全員が参加できるバスハイクを5月31日（日）に実施しました。今回のバスハイクは利用者48人、職員28人、ボランティア3人、保護者11人合計82人がバス2台でトロワランド前を出発して一路東京スカイツリーを目指しました。

東京スカイツリーの展望デッキから、好天に恵まれた21世紀の東京パノラマを眺めることができ、その眺望に歓声が上がりました。眼下には、午後に遊覧船で川下りを楽しむ隅田川の流れもくっきりと見下ろすことができ、期待に胸が膨らみました。



(写真提供：杉山征男さん)

昼食は、浅草で天ぷら料理を楽しみました。食後は、江戸東京博物館で江戸時代の街並みを鑑賞する体験と暮らしの体験をしました。駕籠に乗って江戸時代の人々の大きさを体験したり、千両箱を持ち上げて重さを体験したり、纏を振ってみて重さを体験したり、人糞を肥料として運ぶ桶を担いでみたりと参加者一人ひとり、思い思いの体験を楽しみました。



(江戸時代の街並みの建物の模型 写真提供：杉山征男さん)

江戸東京博物館の近くから隅田川の遊覧船に乗り、隅田川にかかる形や色の異なる12橋を巡り、12橋の最後のかちどき橋をくぐって浜離宮公園で下船し、記念写真を撮影して帰路につきました。



(浜離宮公園で記念写真 写真提供：杉山征男さん)

編集後記：8月号を発行する頃は、真夏が続いていることでしょう。地域での祭礼への参加や自主製品の販売活動の報告を計画しています。また、グループホームでの活動報告も掲載していく計画です。